

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501962		
法人名	社会福祉法人 悦和会		
事業所名	グループホーム こうえつ苑		
所在地	〒800-0207 福岡県北九州市小倉南区沼緑町1丁目11番21号 TEL 093-471-8215		
自己評価作成日	平成28年09月16日	評価結果確定日	平成28年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成28年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

タオル体操やレクリエーションを通じて、ADLや心身両面での健康維持に取り組んでいます。併設施設のグラウンドを活用したり、併設施設と合同で町内納涼祭りや、焼き肉夏祭り、運動会、餅つき、中学校吹奏楽演奏、幼稚園児・保育園児のお遊戯などの行事を行い、地域との交流に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「こうえつ苑」は郊外の住宅街の一角の複合型施設の中で、2ユニット(定員18名)のグループホームである。35年前から福祉事業に取り組み地域との深い信頼関係を築き、13年前にグループホームを開設し地域との相互関係を築き頼りになる事業所を目指している。利用者と職員は地域の一員として行事や活動に参加し、法人と合同の夏祭りや敬老会、運動会等に、地域住民やボランティア、家族が参加し、相互交流の輪が広がっている。また、往診体制の整った協力医療機関や訪問看護と介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、早期治療に取り組み、安心して任せられる医療連携が整っている。ホーム長は職員の特技や能力を把握し、適材適所の役割分担で職員が生き生きと働ける就労環境である。今後は介護相談や認知症予防に取り組む地域密着型事業所として、地域貢献に取り組む「こうえつ苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームこうえつ苑独自の理念と介護方針を作り、朝礼時に理念と介護方針を唱和し、理念に沿ったケアを目指して日々研鑽している	ホーム独自の介護理念と方針を掲示し、毎日の朝礼時に出勤職員で唱和し、職員一人ひとりが理念の意義を理解し、家庭的で笑顔溢れるホームを目指している。また、職員は、介護に悩んだり迷った時には、理念を振り返り介護の原点を取り戻している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体法人と町内合同での納涼祭りや、運動会、市民センターでのふれあい祭り、沼中学校の吹奏楽演奏、幼稚園児、保育園児の演奏会等、地域と交流を図っている	利用者と職員は、地域の一員として、地域の行事や市民センターの活動に参加し、法人と町内会合同の納涼祭に地域住民や家族が参加し、年々交流の輪が広がっている。また、沼中学校吹奏楽部の定期演奏会や幼稚園児、保育園児の演奏は、利用者の楽しみなひと時である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かすまでには至っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族、地域包括支援センター職員、自治連合会長などの参加により、事業行事報告等の話し合いを行い、サービスの質の向上につなげている	運営推進会議は、2ヶ月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み、困難事例や事故等を報告し、参加委員からは、質問や要望、地域情報等が提案され、充実した会議になっている。出された意見や要望は検討し、次回の会議で結果や進捗状況を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北九州高齢者福祉事業協会に参加し、市職員と情報を共有したり、アドバイスをもらえるように取り組んでいる	北九州高齢者福祉事業協会やグループホーム協議会に参加し、他事業所や行政と意見や情報を交換し、連携が図られている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を理解した上でアドバイスや情報を提供して貰い、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議において身体拘束についての研修を行ったり、話し合いをもっている	外部や法人内研修会の中で、身体拘束について学び、職員間でスピーチロックやドラッグロック、フィジカルロックについて話し合い、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、「身体拘束をしない・させない」介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議において虐待についての研修を行ったり、話し合いをもっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が、権利擁護・市民後見センターのサービスを使われており、いつでも説明できるよう学ぶ機会を設けている	現在、権利擁護の制度を活用している利用者が居るので、職員は制度が、利用者にとって重要であることを理解し、資料やパンフレットを用意し、いつでも説明が出来るように取り組んでいる。また、利用者や家族から相談があれば、内容について説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、介護報酬の改定の際には、家族等には十分説明し、納得してもらえるように努めている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付先をホーム内に提示し、意見箱を設置している。家族の面会時に気軽に意見や要望を言える雰囲気作りにも努めている	家族面会や行事参加の時に家族とコミュニケーションを図り、利用者も交えて意見や要望、心配な事等を聴き取っている。また、面会の少ない家族とは、電話やメールを使って話し合い、家族の不安を取り除き、意見や要望を聴き取り、ホーム運営や、利用者の介護に反映出来るように取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議などで意見や提案を聞き、反映できるように努めている	職員会議や各ユニット毎の会議を毎月開催し、職員の意見や要望、アイデア等を話し合い、活発な意見交換の場になっている。出された意見や要望が、ホーム運営や業務改善に活かされるように取り組んでいる。また、毎日の朝礼時に職員の気付きを話し合い、管理者に相談し、解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境・条件の整備に努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、介護への思いなどを大切にしており、性別や年齢などで差別はしていない	職員の採用は、人柄や介護に対する取り組み等を考慮し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。職員の休憩室や休憩時間を確保し、勤務体制や希望休に配慮し、リフレッシュしながら働ける環境を整えている。また、外部の研修会や資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員が生き生きと仕事出来る環境整備に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳、人権を守ることは日頃から全職員が心掛けている	利用者の人権を尊重するために、外部や法人内研修会を職員が受講し、利用者の尊厳のある暮らしの支援について話し合い、利用者の持っている価値観や生活習慣を大切に、ホームでの暮らしが安心して過ごせるグループホームを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、職員一人ひとりの介護サービスに対する取り組みとやる気を引き出し、職員への質の向上につなげている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北九州高齢者福祉事業協会に加入し、地域の同業者と交流する機会を持ち、介護サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に事前面接を行い、本人が利用に対して感じていることを伺い、安心して慣れてもらえるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談や施設見学の時に家族が困っていることや利用に対して不安に思っていることや要望など話しやすいような状況を作って関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話等での問い合わせや事前面接において本人の状況及び周辺環境を聞き、必要としている支援を見極められるように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人が出来ることへの参加を促し、笑顔で日々を過ごせるように会話を通して関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは日頃から情報交換を行っており、利用者を家族と共に支えていく関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、リビングや自室でゆっくりつろいでもらえるように努めている	利用者の馴染みの友人、知人の面会は、ゆっくり話せる場所やお茶等を提供し、また来ていただけるようお願いしている。職員は、利用者とは日常会話の中から、行きたい所や会いたい人等を聞き取り、家族と相談して、思いの実現に向けて努力している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が集える時間を設け、ふれあいを持てるように努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所のときなども、面会に行くなどして、家族からの相談等にものれるように支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に関わる中でその方の思いや訴え等を把握できるように努めている	利用者の日常会話の中から、思いや意向を聞き取り、職員間で情報を共有し、利用者の介護に反映出来るように取り組んでいる。また、意向表出の困難な利用者には、家族と相談し、ベテラン職員と話し合い、職員が諦めずに利用者寄り添い、話しかけ、利用者の表情や目の動きから、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との日々の会話の中で情報を把握するように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の会話や行動を観察すると共に、残存能力を発揮できる場面作りに努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の要望を聞きつつ職員間の気づき等を検討し、本人が安心して生活できるような介護計画を作成している	家族面会時に、利用者や家族の意見や要望、心配な事等を聞き取り、担当者会議やモニタリングの中で、職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を定期的に変更している。また、利用者の介護計画の実施状況や、目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の体調面、生活面などを記入するようにし、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすように努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて、病院送迎、往診など柔軟に支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内合同納涼祭りや焼き肉夏祭り、懐メロボランティアなどには地域のボランティアの方に手伝ってもらい、本人が楽しんで暮らせるように努めている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者又は家族が希望し、納得している医療機関を受診出来る様に支援している	利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みのかかりつけ医と、往診体制が整っている協力医療機関を選択してもらい、受診は家族対応でお願いしている。ホームドクターによる月2回の往診と、訪問看護師と介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、早期治療に取り組み、24時間安心できる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護で、入居者の状態を観察してもらい何かの異常があってもすぐに対応できるように支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院できるように情報交換に努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	こうえつ苑で出来ること出来ないことを考え、かかりつけ医と相談できる体制を作っている	契約時に利用者や家族と話し合い、終末期の介護について、意見や要望を聴き取っている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と常に連絡を取りながら、今後の方針を確認し、利用者が安心して、穏やかに暮らせる終末期の支援が出来る、環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、訓練を行っている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、隣接の軽費老人ホームの職員や入居者等の協力を得られるようにしている	防災訓練は、併設事業所と合同で実施し、職員間の連携と協力体制が整い、利用者が安全に避難場所に避難誘導できる体制を整えている。ホームの通報装置や消火器の使い方を確認し、非常口、避難経路、避難場所を確保し、職員が冷静に素早く対応できる訓練を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を意識している	利用者のプライバシーを守る介護の在り方について、職員間で話し合い、声の大きさや対応に注意し、トイレや入浴介助では、利用者のプライドや羞恥心に配慮している。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の意思決定を尊重し、思いや希望を伝えられる環境づくりに努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中の雑談やタオル体操など利用者みんなで集う時間はあるが、その日の体調や希望を聞きながら日課の押し付けにならないように配慮している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や本人の希望で訪問美容などを利用できるように支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者のその日の状態を把握し、台拭きなどを手伝ってもらい、楽しい食事になるように支援している	利用者の嗜好を聴きながら、調理上手な職員が交代で作る料理を、利用者の残存能力に合わせて、調理や後片づけを手伝ってもらい、同じテーブルに利用者や職員が座り、楽しい会話の中で、食欲増進に繋がる食事風景である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の確認などをチェックし、一人ひとりの状態把握に努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて声掛け誘導や口腔介助をしている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にチェック表を作り本人の生活パターンに合わせて声掛け誘導を行っている	トイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、表情や仕草を観察しながら、タイミングを見て声掛けや誘導を行い、利用者のプライドや、羞恥心に配慮したトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行訓練、水分チェックや服薬管理などで便秘の予防に努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回ほどではあるが、利用者の希望や健康状態などを考え入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望や体調を観察しながら、週3回を基本とし、清拭や足浴と合わせて、利用者の健康チェックと清潔保持に努めている。また、入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が交代してタイミング良く声掛けし、楽しい入浴になるように工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や週1回の寝具の交換など、気持ちよく眠れるように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬箱に薬の種類や副作用、用量が書かれた用紙を貼り付け分かるようにしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭きや洗濯物たたみ、本人の希望に合ってレク・アクトなどを提供し、楽しみながら生活できるように支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいいときは、グラウンドで散歩をしたり、体調をみながら少人数でドライブに出かけたりと支援をしている	毎月外出レクリエーションを計画し、花見や買い物、外食、地域の行事、市民センターの活動等にグループで出掛け、利用者の気分転換に取り組んでいる。また、天気の良い日を利用して、近隣の散歩に個別対応で出掛け、自然の風を受けて、利用者が季節を五感で感じてもらえる取り組みを行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を希望される方と、近くのコンビニなどに出掛け買い物をし、支払いまで行えるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときはいつでも電話をかけられるように支援している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には利用者の生けた季節の生け花や、作品が飾られている。リビングにはソファを設置し、利用者がくつろげるように工夫している	利用者が一日の大半を過ごすリビングルームでは、季節毎の利用者と職員の手作りの作品や生花が飾られ、仲の良い利用者同士と一緒に座り、談笑する様子は微笑ましいものがある。建物内は、温度や湿度、照明や音、臭いに注意し、清潔で明るい共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、テレビや少人数でおしゃべりなどできるように工夫している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具やアルバムなどを持ち込まれ安心して過ごせるように工夫している	利用者が長年使い慣れた家具や寝具、仏壇や時計、テレビや生活必需品を家族の協力で持ち込んで、自宅のような雰囲気設置してもらい、利用者が安心して穏やかに生活できるように配慮し、落ち着いて居心地よく暮らせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ等手すりの必要な場所には手すりを設置し、廊下やリビングには転倒しないよう極力物を置いたりせず、安全に歩行が出来るように配慮している		